

## 国際社会学部

# 上原こずえ

UEHARA, Kozue

現代世界論コース／沖縄

社会学／社会運動史／沖縄戦後史



### 「沖縄戦後史」とは何か

専門は社会学／社会運動史／沖縄戦後史です。沖縄の「戦後」は米軍占領とともに始まり、1952年に米軍による占領が終了した日本本土の「戦後」とは異なる歴史をたどりました。沖縄に駐留する米軍基地は朝鮮戦争やベトナム戦争の拠点となって精鋭化・強化し続け、軍事優先政策のもとでの「復興」や「開発」が行われてきました。アメリカは沖縄の1950年代前半を「近代化」の始まりの時期であると位置付けましたが、同時期には「土地収用令」が発布され、沖縄戦の後、人々が立て直しつつあった集落の生活基盤が再び破壊されます。現在もなお、国土面積の約0.6%の沖縄に、圧倒的な割合の駐留兵士数および米軍基地施設が存在し、現在は琉球弧各地で自衛隊基地の増設が推し進められています。

### 研究紹介

これまで私は、沖縄を軸にしながら、日本および環太平洋島嶼地域における軍事・経済開発とそれに対する抵抗運動の系譜を明らかにすることを研究課題としてきました。多くの歴史家たちが実践してきた「民衆の（下からの）オーラルヒストリー（oral history from below）」にならって聞き取りを行い、運動に関わった個人や組織が残したビラや機関誌などの文章を読みながら、沖縄戦後の「開発」という出来事を再検討する研究を行ってきました。

近年は、運動の主体をめぐる問題についても考えています。戦争・占領・駐留に伴って、沖縄では土地や海や空の囲い込みが繰り返され、その過程で生産手段を奪われた人々の生が周縁化されてきました。そうした人々をはじめとする主体や、それによる行為を、「国民」や「市民」による運動はいかに見過ごし排除してきたのか、周縁化された主体をいかに抵抗運動の文脈に再接続することができるのかを沖縄戦後史の文脈において見出していくのが現在の課題です。

沖縄戦後の社会運動史研究

### 担当授業

- 社会学原論
- 現代社会論
- 質的社会調査法
- 現代沖縄社会論

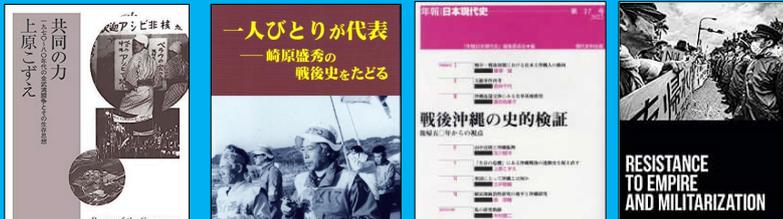
### 関連する分野

- ジェンダー研究
- 社会史
- オーラル・ヒストリー

### 出版物

- 『沖縄県史 各論編7 現代』
- Resistance to Empire and Militarization: Reclaiming the Sacred
- 『共同の力——一九七〇～八〇年代の金武湾闘争とその生存思想』
- 『一人びとりが代表——崎原盛秀の戦後史をたどる』
- 『メディア・リテラシーの現在』
- 『カルチュラル・スタディーズで読み解くアジア』

- ・ 『共同の力——一九七〇～八〇年代の金武湾闘争とその生存思想』
- ・ 『一人びとりが代表——崎原盛秀の戦後史をたどる』
- ・ 「「生存の危機」にある沖縄戦後の運動史を捉え直す」
- ・ 「地域開発を問い直す住民運動」



# 国際社会学部

## 社会学ゼミ



沖縄島北部東海岸への新たな米軍基地建設に抗議するためカヌーを漕ぐ人々

### どのようなゼミか

本ゼミでは、人々の日常と、人々の置かれた構造的変動の連関、言い換えれば、個々人の具体的経験〈ライフヒストリー〉と〈歴史〉の接点を捉え、記述することを目指しています。

共通文献として読むのは、沖縄現代史や社会運動に関するテキストや資料です。特に、沖縄戦前／後からの沖縄における困り込み／エンクロージャーとそれに対する抵抗、とりわけ女性をはじめとする周縁化された人たちの経験が議論の対象になります。

アメリカの社会学者C・ライト・ミルズ（1916-1962）は、1959年の著書のタイトルにもなった「社会学的想像力」について、「巨大な歴史的状況」と「多様な諸個人の内面的生活や外面的生涯」の関連を捉えることだと指摘しました。ミルズの考えにならえば、社会学を学ぶ意義は、個々人の日常が「社会」や「歴史」とどう関連しているかを捉える「社会学的想像力」を鍛えることであり、かつ、構造的変動の中で翻弄されながらも、変革を求め抗い生きる個々人の日常の具体的経験がつくる歴史を捉えていくことだと言えると思います。

こうした理解を土台にしながら、社会学の領域の議論を用いて近代化、格差、文化、消費、メディア、環境、ジェンダーをめぐる問題について考察していくというのがこれまでの多くのゼミ生の卒業論文の傾向です。

### 卒論

- 政治を歌うことに関する考察
- フィリピン旧日系4世の日本定住という「賭け」
- イングランドフットボールにおけるファンサポーターとその発展可能性
- 沖縄県那覇市における「子どもの居場所」支援の実態
- 現代日本における「食べること」の外部的化とその問題
- 1990年代のフィジーにおける観光産業
- 日本のアイドルシーンにおける〈キャラ〉の功罪

### おススメの本

- 新崎盛暉『沖縄現代史』
- C・ライト・ミルズ『社会学的想像力』
- 烏山淳『沖縄：基地社会の起源と相克』
- 若林千代『ジープと砂塵』
- 洪ユンシン『新装改訂版 沖縄戦場の記憶と慰安所』
- 謝花直美『戦後沖縄と復興の「異音」』
- 澤田佳世『戦後沖縄の生殖をめぐるポリティクス』

(現代世界論コース 上原こずえゼミ)

各学生は社会学を軸にそれぞれのテーマ研究を行っており、難民、食選択、ジェンダー、アイドル、観光と多岐にわたります（関心に応じて、研究テーマの変更にも柔軟に対応していただけます）

授業では社会学や社会調査に関する共通文献の購読や、各自の研究報告をおこないます。

当ゼミの魅力は、①学生の主体性を尊重する懐の深さ、②自分の知らない研究テーマ、地域を扱うゼミ生たちと刺激し合える環境があることです！

社会学をやりたい方はもちろん、自分の研究したいテーマを扱えるゼミが外大にはないかも・・・と悩まれている方も、ぜひ一度ゼミ見学にいらしてみてください！

(『東京外国語大学国際社会学部の歩き方2021年度版より抜粋)